

特別活動 学級活動(2) 指導案作成例

第4学年〇組 学級活動(2)指導案

題材は教師が設定する。

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
指導者 教諭 〇〇 〇〇

年間指導計画 4学年 〇月題材 学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

1 題材 「見直そう ゲームの時間」
学級活動(2) ア 基本的生活習慣の形成

2 題材について

※以下に示した項目の内容を含んだものにして記述すること。

(1) 児童の実態 (略)

- ・本題材に関わるアンケートの結果を踏まえた児童の実態
- ・これまでの学級活動の取組 ・中学年の評価規準からみた実態と目指す方向

(2) 題材選定の理由 (略)

- ・本題材設定の理由 ・本題材における指導の工夫と評価との関わりについて

『「指導と評価の一体化」
のための～』P. 25第2
編を参考にする。

3 第3学年及び第4学年の評価規準

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する 諸課題の改善に向けて取り組むこ との意義を理解し、よりよい生活 を送るための知識や行動の仕方を 身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する 諸課題に気づき、解決方法など について話し合い、自分に合ったよ りよい解決方法を意思決定して実践 している。	自己の生活をよりよくするため に、見通しをもったり振り返った りしながら、意欲的に課題解決に 取り組み、他者と協力し合ってよ りよい人間関係を形成しようとし ている

※評価規準は、学習指導要領「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえて、学校ごとに設定すること。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
アンケートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームに費やす時間やゲームのやり 過ぎで困った経験などを調査し、表 やグラフにまとめる。 ・これまでの生活を振り返る時間を設 け、課題への意識を高められるよ うにする。 	◎ゲームに関する自己の生活を進んで 振り返ろうとしている。 【主体的態度】〈アンケート〉

5 本時のねらい

ゲームに集中しすぎてしまうことが学校生活に影響を与えることを知り、けじめをつけて利用することができるようにする。

この事例は養護教諭との
TT授業として設定。

6 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点		資料	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
		T 1 (学級担任)	T 2 (養護教諭)		
導入 つかむ 5分	1 事前のアンケートを見て気付いたことを話し合う。 2 ゲームのやり過ぎによる問題点を考える。	・ゲームに対する学級全体の課題を確認し、課題解決への必要感を高める。	・スライドでアンケート結果を表示する。	集計結果	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ゲームの時間を守れるようにするためにどのようにしたらよいか考えよう </div>					
展開 さぐる 15分 見つける 15分	3 ゲームをやめられない原因を考える。 4 ゲームのやり過ぎによる体への影響を知る。 5 ゲームのやり過ぎを改善する方法について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意志の弱さでやめられない以外にも、ゲームには、集中させる仕組みがあることを知る。 ルールを守ってゲームを利用することの大切さを説明する。 やり過ぎないようにするにはどのようなすればよいか、自分の経験を想起したり、友達工夫を聞いたりして、具体的な方法を考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 視力の低下や睡眠不足が学力にも影響することなどを説明する。 	体への影響に関する掲示資料	◎どうしたらゲームのやり過ぎを改善できるのかを考えている。 【思考・判断・表現】 (観察)
終末 決める 10分	6 話し合ったことを参考にしてこれからの生活におけるゲームの約束について、個人目標(内容や方法など)を決める。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの結果を参考に、自分の課題に合った具体的な目標になるよう助言する。 数名に発表してもらい、目標の修正や実践の参考にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、必要に応じて具体性のある目標を立てられるよう助言する。 	学習カード	◎自分の課題に合った具体的な目標を決めている。 【思考・判断・表現】 (めあてカード)

「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため、具体的な姿を想定する

【努力を要する活動の状況と判断される場合】は、児童の家庭の様子を聞きながら、板書や友達発言等から、具体的な目標設定をするよう促す等、どのような支援をするかを具体的に設定しておく。(指導上の留意点などに記述すると良い。)

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
自分の立てた目標や取組について振り返る。 友達同士で取組を確認し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事後に振り返る機会を設定し、実践化に向けて継続した取組になるように助言する。 ・ 帰りの会などを利用して、友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いのがんばりを励まし合うことにより、実践の継続を図るようにする。 	◎今後の生活におけるゲームの使い方への見通しをもち、自己の課題を改善しようとしている。 【主体的態度】 〈めあてカード〉

※評価は、本時のみで見取るのではなく、事前・事後も確実に評価すること。

8 板書計画（略）

※国立教育政策研究所「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる 特別活動 小学校編」などを参考にすること。

《参考・引用文献》

『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』（文部科学省 2017 年）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』

（文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020 年）

『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる 特別活動 小学校編』

（文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2018 年）